

令和元年度

# 小学生名寄自然体験交流事業報告書



名寄市観光キャラクター  
「なよろ」



杉並区次世代育成基金活用事業

令和2年3月  
杉並区教育委員会

# 目次

- 01 名寄自然体験交流事業を終えて  
杉並区教育委員会 教育長 井出 隆安  
名寄市教育委員会 教育長 小野 浩一
- 02 小学生名寄自然体験交流事業の概要
- 04 名寄自然体験交流マップ
- 05 写真でふりかえる交流事業
- 11 参加児童の作文・作品
- 35 名寄自然体験交流事業によせて  
杉並区立高井戸第三小学校 校長 馬場 章弘
- 36 保護者の感想

## 名寄自然体験交流を終えて

杉並区教育委員会 教育長 井出 隆安

杉並区の交流自治体である名寄市に、小学生25名を派遣する「小学生名寄自然体験交流事業」は今回で8回目となります。名寄市の皆様をはじめとした多くの方々の支えにより、今回も無事に終えることができましたことを大変感謝申し上げます。

派遣期間の初日、なよろ市立天文台きたすばるでは、太陽が欠けたまま日の入りとなる「日入帯食」を観察できるよう準備いただいていた。残念ながら天候不良により実際の観察はできませんでしたが、きたすばると交流のある台北市天文科学教育館（台湾）及び石垣島天文台で見られている日食の映像、また民間の気象予報会社によるグアムからの日食の映像を、インターネット中継を通して同時にみることができ、世界の日食の様子を学ぶことができました。

また、出発を前に、北海道内では気温の高い日が続き、「雪不足」も伝えられていましたが、派遣期間中は、氷点下15℃まで気温が下がり、子ども達はまさに、名寄の極寒を体感できました。

2月に行われた学習成果発表会では、派遣期間中の二日目に、日本で最大級のピリカ望遠鏡で天王星やオリオン大星雲の観察をし、杉並と名寄の星空の違いを学んだことや、名寄の子ども達との交流から名寄の魅力をたくさん知ることができたなど、様々な体験談を聞くことができました。豊かで厳しい自然や天体観望等の体験、さらには雪の中での名寄の子ども達との交流は、この事業に参加した子ども達の探求心や豊かな人間性を育んだものと実感しています。

子ども達が実際に体験してきたことを、それぞれ個性のある内容で発表した模様は、インターネット中継により名寄市の皆様にもご覧いただき、子ども達の感動や成長した姿が伝わったのではないかと思います。

最後になりましたが、本事業の実施にあたりまして、次世代育成基金の趣旨にご賛同・ご支援をいただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

名寄市教育委員会 教育長 小野 浩一

名寄市で実施されました「小学生名寄自然体験交流」が、本年度も無事終了できましたことを大変嬉しく思います。実施にあたり、準備等にご支援、ご協力を賜りました保護者、関係者の皆様に心より敬意を表する次第であります。

本年度の名寄の冬は、降雪量が非常に少ない年となりましたが、3日間にわたり良好な天候に恵まれ、北国名寄の冬を体感していただきました。

参加された杉並区の児童の皆さんには、北国博物館で対面式と交流会を行った後、スノーシュートレッキング、そり遊びでの交流に加え、カーリング体験、天体観測など、名寄ならではの雪と寒さに親しみ楽しんでいただいたところであります。

また、学習成果発表会では、名寄の冬の気候や自然、動植物、人々の暮らし、文化、農作物や歴史などについて班ごとにテーマを設け、自分たちの体験をもとに学習したことをまとめ上げ、立派に発表されている姿にとっても感動いたしました。

本事業は、「杉並区次世代育成基金」を活用して、次世代を担う子どもたちが様々な体験・交流を経て、夢を描き、その夢に向かって健やかに成長できる取組みを支援する活動と聞いておりますが、名寄市の子どもたちにとっても思い出に残る貴重な経験であったと思います。

名寄市での体験と交流が、本事業の目的に少しでも寄与できますよう、今後とも受入に最大の努力をしていきたいと考えております。

結びに、本事業を通じて杉並区と名寄市の交流と相互理解がますます深まることをご祈念申し上げます、ご挨拶といたします。



# 令和元年度 小学生名寄自然体験交流事業の概要

## 1. 目的

この事業は、杉並区次世代育成基金を活用して、区内児童を交流自治体である名寄市に派遣し、厳しい寒さと豊かな自然との触れあいや、国内最大級の望遠鏡による観測等の体験、さらには地元の子どもたちとの交流などを通じて、自然の雄大さや大切さに気付き、さらに文化や産業の違いと良さを認め合う態度など、児童の知的好奇心や、豊かな人間性を育むことを目的としています。

## 2. 事業のスケジュール

令和元年 11月 8日(金)	第1回事前学習会・結団式・保護者説明会
11月 24日(日)	第2回事前学習会・インターネット交流
12月 9日(月)	第3回事前学習会・保護者説明会
12月26日(木)～12月28日(土)	自然体験交流(北海道名寄市派遣)
令和2年 1月14日(火)	学習相談会
2月 1日(土)	学習成果発表会

## 3. 派遣児童名簿(学習・行動班別)

班	氏名	学校	学年	班	氏名	学校	学年
1班	斧田 真穂	杉並和泉学園	5年	3班	力丸 千洋	高井戸第二小学校	6年
	小川 みなみ	杉並第二小学校	5年		福田 万結	桃井第一小学校	5年
	岸本 叶大	桃井第三小学校	5年		成田 悠希	方南小学校	6年
	松浦 昊生	杉並和泉学園	5年		織田 新多	四宮小学校	5年
	三上 日菜子	荻窪小学校	5年		渡邊 紗良	方南小学校	5年
2班	宮丸 拓也	八成小学校	5年	4班	黒川 集琉	高井戸第二小学校	5年
	ジュリアル 未亜	天沼小学校	5年		今井 千尋	筑波大学附属小学校	5年
	宮崎 大地	富士見丘小学校	5年		小野寺 美岬	四宮小学校	6年
	岩田 奏	浜田山小学校	5年		山口 大陽	西田小学校	5年
	丸山 蒼介	東京学芸大学附属大泉小学校	5年		高橋 月音	堀之内小学校	5年
5班				5班	富山 汰樹	堀之内小学校	5年
					比田 柊真	八成小学校	5年
					藍澤 和航	杉並第七小学校	5年
					大澤 瑞樹	杉並第九小学校	5年
					阿尾 進之介	済美小学校	5年

## 4. 引率者

久保田 福美	教育委員会教育委員	大久保 千穂	永福小学校 教諭
馬場 章弘	高井戸第三小学校 校長	田中 優一	杉並和泉学園 教諭
東口 孝正	済美教育センター 統括指導主事	安藤 利貞	生涯学習担当部長
古林 香苗	済美教育センター 統括指導主事	岸本 彩	生涯学習推進課管理係 主査
森賀 慎一	浜田山小学校 副校長	鈴木 美貴	生涯学習推進課管理係
馬場 雅人	久我山小学校 主任教諭	瀬端 一哉	生涯学習推進課社会教育センター
清水 宏樹	四宮小学校 教諭	※他	看護師 1名

## 5. 学習指導者

織茂 直樹	杉並第三小学校 校長(前年度引率)
小山 浩	済美教育センター 理科教育指導担当

## 小学生名寄自然体験交流事業(令和元年度)行程表

時間	1日目[12月26日(木)]		2日目[12月27日(金)]		3日目[12月28日(土)]	
	曇り時々雪	最高気温 - 5.4℃ 最低気温 - 14.7℃	晴れ時々雪	最高気温 - 3.6℃ 最低気温 - 15.2℃	曇り	最高気温 - 6.0℃ 最低気温 - 18.3℃
6			6:00	起床	6:00	起床
7	7:30	児童集合	7:00	休暇村コテージ発	7:00	休暇村コテージ発
	7:45	出発式	7:10	なよろ温泉サンピラー着(朝食) ③	7:10	なよろ温泉サンピラー着(朝食) ③
8	8:00	杉並区役所発	8:15	なよろ温泉サンピラー発	8:05	見送り式
			8:30	北国博物館着 ④	8:15	なよろ温泉サンピラー発
9	9:45	羽田空港着		博物館見学	8:40	もち米の里「なよろ」着 ⑥
					9:00	もち米の里「なよろ」発
10	10:35	羽田空港発(JAL553便)	10:00	対面式	10:30	旭山動物園着 ⑦
				スノーシュー トレッキング &宝探し		
11		昼食(機内)				グループ行動
12	12:15	旭川空港着	12:10	昼食(豚汁給食)		昼食(園内)
				12:50		
13				雪あそび		
14	14:50	きたすばる着 ①	14:00	名寄児童とお別れ式	14:30	旭山動物園発
			14:15	北国博物館発		
15		日食映像鑑賞	14:30	サンピラー交流館着 ⑤	15:00	旭川空港着
				カーリング		
16	16:00	きたすばる発	16:35	サンピラー交流館発	16:15	旭川空港発(JAL556便)
17	17:00	きたすばる着 ①	17:00	休暇村コテージ発		
18	18:00	きたすばる着 ③	17:10	きたすばる着 ①		
19	18:30	きたすばる発	18:30	きたすばる発	18:40	羽田空港着
20	19:00	夕食	19:30	夕食	19:10	羽田空港発
21	20:00	休暇村コテージ着 ②	20:10	なよろ温泉サンピラー発	20:10	解散
21	21:30	就寝	21:30	就寝		

①～⑦の番号は、4ページのイラストマップで場所を示しています。

# 名寄自然体験 交流マップ



派遣期間中に、皆の自然体験、交流体験の舞台となった名寄をイラストマップにしました。



	名寄市公式サイト		<b>4</b>	名寄市北国博物館	
<b>1</b>	なよろ市立天文台 きたすばる		<b>5</b>	サンピラー交流館	
<b>2</b>	北海道立森の休暇村コテージ サンピラーパーク		<b>6</b>	道の駅 「もち米の里☆なよろ」	
<b>3</b>	なよろ温泉サンピラー		<b>7</b>	旭山動物園 (旭川市)	

## 第1回 事前学習会 令和元年11月8日(金)



親子そろっての結団式。  
レクリエーションでは、派遣児童たちが打ち解けあうきっかけを作ります。

## 第2回 事前学習会 令和元年11月24日(日)



いよいよ名寄についての  
本格的な学習がスタートし  
ます。  
12月に会う名寄のみな  
さんと一足早く映像と音声  
で交流をするほか、先輩児  
童から自分の学習の進め方  
などを教えてもらいます。

## 第3回 事前学習会 令和元年12月9日(月)



事前学習もラストスパート。  
旭山動物園でのグループ行動の計画も立てるなど、自主・自立の心を  
養います。

## 名寄派遣 第1日目 令和元年12月26日(木)

区役所での出発式のあとは、早速、北海道名寄市へ向かいます。これからの3日間では、観察・調査・実験や名寄の皆さんに話を聞いてみたりしながら、事前に決めた学習課題について解決に取り組みます。



区役所での出発式



あいにくの空模様で部分日食を見ることはできませんでしたが、なよろ市立天文台きたすばるの台長に解説をしていただき、世界各地の日食をライブ鑑賞しました。



きたすばる



日食鑑賞



プラネタリウム鑑賞



アイスクリーム作り



## 名寄派遣 第2日目 令和元年12月27日(金)

名寄市北国博物館では、「名寄の気候・地形・動植物について」や、「大昔から現在までの人々の生活について」の展示を前に、館長をはじめ、学芸員の方々から多くのことを学びました。



名寄市北国博物館での調べ学習



### 名寄のみなさんと対面式



北国博物館での調べ学習のあとは、名寄の児童との対面式。

その後は、みんなで一緒になって原野の中に飛び出し、スノーシュートレッキングを体験しました。日本自然保護協会の指導員の方々が同行してくださり、雪の上を歩きながら、林の中で暮らす生き物たちや木々の様子、北海道の雪の特徴など、大自然の驚異を丁寧な説明で教えていただきました。

### スノーシュートレッキング



### 名寄市学校給食センターの豚汁給食



### 雪遊び



対面式から始まって、スノーシュートレッキング、名寄市学校給食センターのみなさんに作っていただいた温かい豚汁給食、雪遊び。名寄の児童との交流は、盛りだくさんのメニューで、あっという間に時間は過ぎていきました。最後は記念撮影と、ハイタッチでお別れです。

北国博物館を後にするバスの中から手を振ると、バスが見えなくなるまで手を振り続けてくださった名寄の皆さんが、心に残りました。



名寄のみなさんとの別れ「また会いましょう！」



### カーリング体験



サンピラー交流館では、初めてのカーリング体験。

コーチの丁寧な指導のもと、最後には簡単なゲームも楽しみました。体を動かしながら地元の方々とふれあい、貴重な体験となりました。

その後は、再びなよろ市立天文台きたすばるへ移動して、天体望遠鏡「ピリカ」で冬の星空を観測しました。ピリカ(pirka)とはアイヌ語で美しいという意味です。



### 天文観測



### 名寄名物「煮込みジンギスカン」



2日目の夕食は、名寄市のソウルフード「煮込みジンギスカン」。

名寄では火を通した肉に、お好みの野菜とタレを加え、さらにはうどんなどの麺も入れて、グツグツ煮込み、肉・野菜・麺と一緒に食べるのが主流です。みんなで身も心もぽっかぽかに温まりました。



### 名寄派遣 第3日目 令和元年12月28日(土)

#### 名寄のみなさまによる見送り式



#### 旭川動物園でのグループ行動



名寄市を出発する私たちを、北国博物館長をはじめ、お世話になった名寄の方々が見送りに来てくださり、温かな言葉をいただきました。

途中、道の駅でお土産の買い物をし、旭山動物園へ向かいました。旭山動物園では、学習行動班ごとに自分たちで考えたルートで行動し、見学をしました。



#### 到着式



学習成果発表会 令和2年2月1日(土)



「名寄での3日間」をスライドショーで振り返りました。

今回の自然体験交流を通して学んだこと、感じたことなどを、一人ひとりの児童が作品や作文にまとめ、ステージ上で発表を行いました。この模様はインターネットで名寄市にライブ中継され、発表の様子を名寄のみなさんが見守ってくださいました。

名寄市にも中継されました。



発表の様子



作品はセッション杉並のロビーに展示され、多くの方々に見ていただきました。



参加児童の作文・作品

学校名	杉並和泉学園	氏名	斧田 真穂
-----	--------	----	-------

名寄の「すごい」、「おどろき」～マイナスの世界～

みなさんは、マイナス15度と聞くと、どんな感じを想像しますか。息が白くなったり、手が凍ったようにかじかんだりする感じでしょうか。私も実際に名寄に行って体験するまではそう思っていました。しかし名寄の寒さは、それよりはるかにすごいのです。

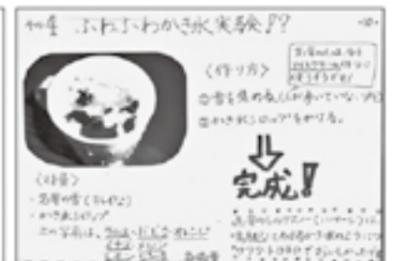
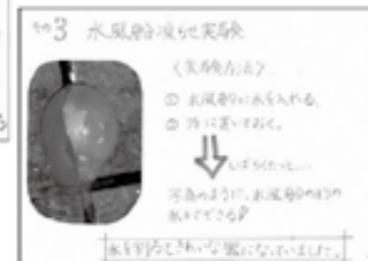
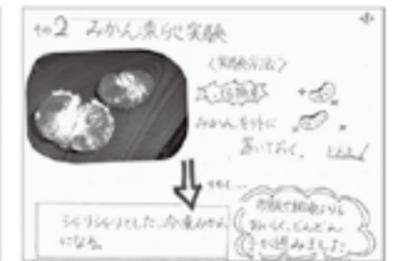
羽田から飛行機で旭川に行き、窓をのぞくと、辺り一面銀世界が広がっていました。外の気温は、マイナス4.6度。私は、今までマイナス4度は経験した記憶がなく、その寒さに言葉も出ませんでした。1番冷えた3日目はマイナス15度まで下がり、「これぞ北海道」という感じで、びっくりしました。

そんな、寒すぎる名寄で私は色々な、「すごい」を体験しました。私が感じた名寄の「すごい」は、大きく分けて2つです。

1つ目は、自然と生き物の「すごい」です。北海道といえば厳しい寒さ。その寒さは冷凍みかんが作れる程で、それによって、雪がとても細かく、傘もいりませんでした。また、そんな寒さの中で、トナカイやペンギンなど様々な生き物が懸命に寒そうにもせず生活していたのでおどろきました。

2つ目は、夜空の「すごい」です。名寄の夜空は、プラネタリウムを見ているかのようでした。また、曇ってしまい、日食は見ることはできませんでしたが、「なよろ市立天文台 きたすばる」の台長さんが、星についてたくさんのことを教えてくれて、宇宙について、興味をもちました。

このように名寄には、東京にはない魅力がたくさんあります。本当にそれは「すごい」と「おどろき」でたくさんです。ここで紹介した以外にもたくさんを体験しました。だから、百聞は一見にしかず、実際に名寄に足を踏み入れてみてください。そして、寒さだけじゃない、名寄のすべてを体験してみてください。最後に、私はこれから、この名寄でのすばらしい経験を生かしていきたいと思います！



「斑杉並ではありえない!? 自然の地「名寄」」

学校名	杉並第二小学校	氏名	小川 みなみ
-----	---------	----	--------

### 名寄はあったかい？

私は名寄市に行って、雪の力を感じました。みかんはおいておくだけでカチコチに凍り、もっているだけでどんどん手が冷たくなりました。給食の冷凍みかんの何倍も冷たく、びっくりしました。雪にうめたきゅうりは、木にがびょうを打てるトンカチに変身します。ものの10秒打つだけで、がびょうは完全にささります。そして私は、生まれてはじめて、「銀世界」を体験しました。今まで雪は白いのに、なぜ“銀”という表現をするのかなと思っていたけど、朝、ドアを開けたら、一面にふり積もった雪がかがやいて見えました。これが本当の「銀世界」だと思いました。他にも、雪にかき氷シロップをまぜるだけで、フワッフワのかき氷ができるというのも、雪質日本一の名寄市の雪でしかできないことだと思います。また、バナナを雪にうめていたら、形だけ残ってなくなっていました!!先生は、「動物にとられたんじゃない?」と言っていました。これも自然の力なののでしょうか。東京に帰ってくると、名寄市の寒さや雪をふみしめる感覚が一気に恋しくなりました。

そんな寒〜い気候とは反対に、名寄市であったかいものを感じました。それは、名寄市の人達の“心”です。現地の小学生と一緒に食事をして、北海道の学校について教えてくれたり、雪合戦にも参戦してくれました。旭山動物園では、動物の紹介文を小学生が書いていたり、亡くなったライオン夫妻の思い出が書いてあったりしました。バスの運転手さんは、早朝からおそくまで、私達を運んでくれました。まだまだたくさんありますが、とにかく名寄市の人達の心は、カイロの百億倍あったかいんです!

でも…絆では、私達も負けていません!私の生活班では、1日目からみんなとても仲良くなりました。たった3回の事前学習会でしか会っていないメンバーと3日間いっしょに生活するのは少し緊張したけど、夜にみんなでしゃべったり、バンドナのつけ方をそろえたりして、とっても楽しかったです。

このように派遣中の3日間は、学校でも、家でも、習い事でもできない貴重な経験ができました。私の2019年一番の思い出です。



学校名	桃井第三小学校	氏名	岸本 叶大
-----	---------	----	-------

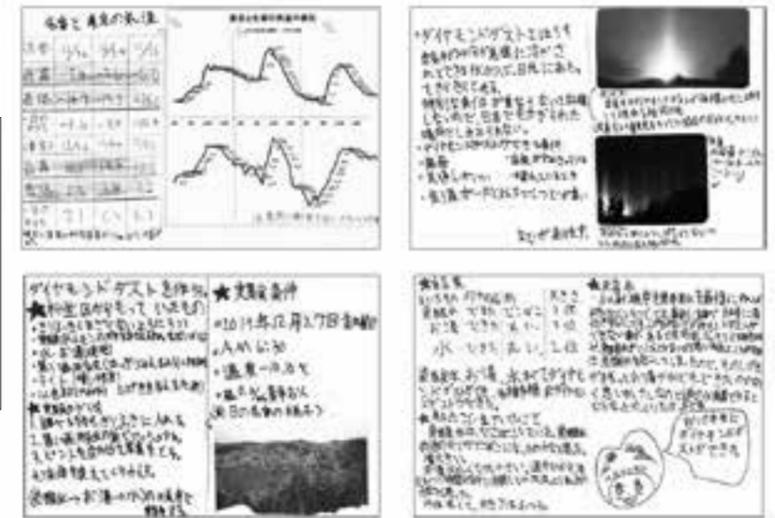
### マイナス 10.1 度の大実験!

移動の飛行機のまどからは白い山が見えた。「白い!すごい雪だ!」とわくわくした。名寄に着いて、歩いてみると東京のザクザクという感じよくとちがう、さらさら、きゅっきゅつとした雪だった。これが雪質日本一の雪なんだ!!と思った。

ぼくは1班「気候、自然」について学習する行動班のメンバーだった。名寄は夏と冬の温度差が60度とも言われていて、ぼくたちが行った時は最低気温がマイナス18度になった。お風呂あがりにぬれたタオルをふり回してみたら1分半くらいで凍った。

ぼくは名寄でやりたいことがあった。寒いってどれくらいなのか想像がつかなくて、せっかくだから寒い所でしかできないことをやろうと思った。家族に相談して、自分でダイヤモンドダストを作ることになった。杉並区からきり吹き、炭酸水、黒い画用紙などを準備して持って行った。2日目の朝、外に出てみると風がない。「これはいけるかも」と思った。調べていたダイヤモンドダストの条件の一つが風がないことだったからだ。あとの条件は気温がマイナス10度以下のこと、湿度が高いこと、などだった。まだ日の出前だったので、念のために持っていった中電灯で照らした。5回プッシュしたら、きらきらと小さな小さなつぶがまうように下に落ちた。ダイヤモンドダストだと思った。ちょっと感動した。空気に刺激を与えるといい、と書いてあったので炭酸水にした。そのあと水やお湯でもダイヤモンドダストができた。実験は大成功!

ぼくは名寄に行って百聞は一見にしかずの意味が分かった気がした。この寒さや雪の感触、名寄の人たちの温かさは行ってみないと分からない。そして実験を計画して実際にやってみるという体験はとてもわくわくした。杉並区と名寄のみなさん貴重な時間をありがとうございました。



学校名	杉並和泉学園	氏名	松浦 昊生
-----	--------	----	-------

### 初めての北海道での体験

みなさんは、冬の北海道に行ったことはありますか。ぼくはこの体験で初めて北海道に行くことができました。ぼくは北海道に行く日、早く北海道に行きたくて早めに起きてしまいました。このときぼくは、あんな寒くて冷ぞう庫みたいなどろろに行くとは思っていませんでした。ぼくは行きのバスでも飛行機でも北海道はどのような寒さなんだろうとずっと考えながら旭川空港に着きました。空港を出たしゅん間、凍りそうな寒さでびっくりしました。バスに乗り、なよろ市立天文台きたすばるに着いてバスをおりたら、旭川よりも気温が比べられないほど寒かったです。

さて、みなさんに質問です。みなさんは名寄の雪はどのような雪だと思いますか。例えば、東京と同じような雪とかかたい雪とかだと思いませんか。そう思う人たちは来年でも再来年でもいいので冬の名寄に行ってみてください。名寄の雪に絶対びっくりするはずですよ。

なぜなら、名寄の雪はとてもしらさらでふわふわだからです。どれくらいさらさらでふわふわかというと、雪球がつかれないくらいさらさらでふわふわです。しかも、ふみ心地がかたくり粉のようでとてもおもしろいです。このような雪のことを、パウダースノーと言います。パウダースノーは、とても気温が低いところでしか見ることができません。名寄の雪はこのパウダースノーをこえる雪質でシルキースノーとよばれています。このような寒さの名寄では色々な自然現象を見ることができます。例えば、ダイヤモンドダストやサンピラー現象（太陽柱）を見ることができます。空気中の水じょう気が凍り、ダイヤモンドダストが作り出されます。そのダイヤモンドダストが太陽の光りに反射してできる現象をサンピラー現象と言います。残念ながら、ぼくが行ったときは見ることが出来ませんでした。けれど、行く機会があったらぜひ見てみたいと思いました。



学校名	荻窪小学校	氏名	三上 日菜子
-----	-------	----	--------

### 名寄で学んだ3日間

「やったー、ついに見えた！」手袋のついた六角形の雪の結晶をルーペでのぞくとキラキラしてとてもきれいでした。すぐに溶けてしまうので写真撮影は難しかったです。一面に広がる雪が一粒一粒、宝石のような結晶でできていると思うとワクワクしました。

名寄市の冬は昆虫が少なかったです。アリがくるかと思いき、砂糖を玄関にまいたけれど一匹も寄ってきませんでした。しかし暖かい部屋にはカメムシ・カゲロウはいました。農作物を荒らすカメムシを北海道の人は嫌うそうです。また、エゾクワガタは本州から人間に持ちこまれたカブトムシのせいで、すみかを奪われていると教わりました。私の好きなアゲハチョウが育つには柑橘系の木が必要ですが北海道は寒く育たないためアゲハチョウは少ないと聞きました。北海道の雪の下の土の中で、昆虫が卵やサナギの状態越冬して、辛抱強く春を待っていると思うと「がんばれ！」と励ましたくなります。

また、雪国ならではの実験も行いました。水、砂糖水、塩水を入れた水風船がどのように凍るかの実験は、水だけを入れた風船がカチコチに凍りました。次は凍らせたバナナとキュウリで画びょうを打つ実験です。でも1日目においたバナナが何者かにとられていました。みんなと「きっとサルがとったね」と話し、キュウリだけ残した事がかわいくて許したくなりました。濡らしたタオルは二百回ふりまわすと2分以内でカチンと凍りました。

旭山動物園では、北国の寒さの中でたくましく生きる動物を観察することができました。楽しみだったペンギンパレードはかわいくヨチヨチ歩く様子が見られて良かったです。

名寄の友達は、沢山名寄の魅力を教えてくれました。雪合戦やソリと一緒に遊べてとても楽しかったです。すごく遠い北海道で新しい友達ができ本当にうれしいです。

とても充実した3日間でした。この経験をこれからの自分に生かして学んでいきます。



学校名	八成小学校	氏名	宮丸 拓也
-----	-------	----	-------

### 名寄で学んだ事

名寄の外は冷凍庫のような寒さで、くもりのせいか想像していたよりも空はうす暗く、初日だけ少し心細くなりました。

ぼくは北国博物館で学んだ道具やくらしの歴史から、雪と共存する生活は寒さを防ぐ知恵と工夫次第で快適だとわかりました。ぼくは寒さと雪への対策にもっと興味がわきました。

まず家のつくりです。家は壁・屋根全てを断熱材でおおい、中の熱を逃がさないように作られています。玄関は玄関フードがあり、二重扉の間が小部屋のようになって雪を払ったりできます。窓は二重サッシで断熱効果が抜群、暖房は一日中消す事無く付けているので東京より暖かかったです。名寄はアイヌの人々のくらしが原点で、壁や屋根のカヤが断熱材の働きをし、囲炉裏が床暖房のような効果を発し、湯たんぽ、行火、ストーブと変化し、現在の快適な家につながっています。

次に雪の対策です。屋根の雪は滑りやすいトタン屋根や無落雪屋根で、雪の重さ対策も万全です。また除雪車や圧雪車で道路を確保しています。雪かきは欠かさず、子供も手伝いをしてお小遣いをもらう事もあるそうです。集めた雪は流雪溝に流したり、トラックで回収して道路を守る努力もされています。雪国のくらしは本当に交通を確保する事が大切です。信号も東京と違い縦型でLEDではなく蛍光灯でした。矢羽根という道路の境界を示す標識も初めて見ました。これも雪国ならではの発見でした。

ぼくが一番楽しかったのは名寄の友達とやった雪合戦です。雪質日本一の粉雪はさらさらで、固くにぎるのが難しかったですが、大人数で思い切りはしゃいで遊んだ雪合戦は初めてで良い思い出です。

毎年寒さが嫌だと感じる東京の冬が、名寄の雪景色を思い出すと素晴らしい季節に感じます。学んだ事や経験した事を今後役に立てていきたいです。



学校名	天沼小学校	氏名	ジュリール 未亜
-----	-------	----	----------

### 名寄市で学んだこと

私は名寄自然体験交流事業で杉並区と名寄市の家のちがいについて調べました。

私が名寄市に行ってまず最初にびっくりしたのは、外と室内の気温の差です。東京では外出するときにヒーターを消して行って、帰ってきたら外と同じ温度になっていたりしてもすぐにあたたまりませんが、名寄は部屋が冷えきってしまうとなかなかあたたまらないので、いつも部屋に人がいなくてもヒーターなどをつけっぱなしにしているそうです。寒い名寄市では昔から部屋をあたためる道具が発達してきました。そのため、色々なだんぼうきぐが北国博物館にもたくさん展示されていました。こういったことから、昔から家を温めるために工夫をしてきたことが分かります。

次に私がびっくりしたことは、屋根の形と家の外に大型のタンクがおかれていたことです。屋根は三角形で雪がすべり落ちるようになっていて私が考えていた屋根とは真反対でした。なぜかという、私は平らで雪がおちないように思っていたからです。実際に見たところ、ほぼ三角屋根でたまに私が考えていた無落雪屋根（平らな屋根）があるだけでした。

大型タンクは、家ごとについていました。それがストーブなどにつながっていて、部屋を温めているのだそうです。私も名寄に行った時に、外と室内の気温の差にびっくりしました。

名寄では、昔からスキーも親しまれてきました。スキー板にアザラシの皮をはったものもありました。これは、前に行くときスルスル行って、後ろに行くとき毛がひっかかるようになっていたので、とてもびっくりしました。

私は名寄で寒さを楽しむための工夫を知って、その場所の特色を生かしてすごいと思いました。また寒さにたえるための工夫や努力もすごいと思いました。機会があればまた名寄に行きたいです。このような体験をさせてくれてありがとうございました。



名寄に住む人々の暮らし

名寄に住む人々の暮らし

学校名	富士見丘小学校	氏名	宮崎 大地
-----	---------	----	-------

### 名寄の人達の快適なくらし

ぼくは、名寄市の家の工夫と寒さを利用したくらしについて調べました。  
 東京都の12月の最低気温の平均が8度にもかかわらず、名寄市の最低気温の平均はマイナス10.3度。このような寒い場所だからこそ快適に過ごす工夫があるのではないかと思います、興味を持ちました。  
 名寄の窓はすき間がなく、二重構造の窓が二つたてに並んでいて四重窓になっています。窓から部屋の温度をにがさず、外の寒い空気も入ってきません。  
 屋根は雪を落とす三角屋根や雪を落とさない平らな屋根があります。三角屋根はまわりにほかの家などがないときに使われます。平らな屋根は、住宅密集地でよくみられます。隣の家の屋根から雪や氷柱が落ちて危険なため、屋根に断熱材を入れ、積った雪を溶かす無落雪建築が見られました。

かべには断熱材が入っており、一つの部屋だけではなく家全体を温める役割を持っています。

ぼくは、名寄ではストーブや床暖を使っていると思っていましたが、全く違いました。家全体を暖めるセントラルヒーティングで、お風呂や子供部屋も暖かいそうです。最近寒いので、うちにもあればいいなと思いました。

冬の寒さを利用したスポーツ施設で、ぼくはカーリングを体験しました。ストーンをうまくすべらすコツは、姿勢を崩さず滑る事だと教わりました。姿勢を崩さず安定感を保ったまま滑るのはとても大変でした。

また、寒さを利用して雪像を並べる祭りがあると聞いたので、行ってみたいと思いました。

名寄市の寒さを利用して、アイス作りも体験しました。アイスの材料の入ったボトルを袋の中に入れ、食塩と雪でつつみふると、アイスのできあがりです。食塩に温度を大きく下げる働きがあることをはじめて知りました。自分で作ったアイスの味は、いままで食べたアイスの中でもTOP5に入るくらいでした。

名寄市の家では、ぼくたちの住む東京の家とは違い、快適に過ごす工夫がありました。また、名寄の人達は、お祭や冬のスポーツを楽しむなど、活気に満ちあふれた生活を送っていました。ぼくも、スポーツや勉強など何でもチャレンジしていこうと思います。今度は家族を連れていきたいです。



学校名	浜田山小学校	氏名	岩田 奏
-----	--------	----	------

### 名寄、最高!!!

「わぁ！」空から見た名寄は、見渡す限りとても白くておどろきでした。そして山々が連なるその景色は、ぼくにとっては初めての世界。さて、ぼくの学習課題は「名寄市の人々の生活の工夫」についてです。人々はまきストーブやあたたかい服装で寒さをしのいできました。スキーなどのスポーツもさかんで、名寄の子どもたちに聞いたら、プールの代わりにスキーの授業があるそうです。色々興味深いことはあったのですが！

その中でもまず、「信号機」について。

ひとつ目は、信号機がたて型だということです。これは雪が積もる面積をへらして、重さでたおれないようにするための工夫です。ふたつ目は、LED電球を信号機で使う時の工夫です。LEDなら、うすくて倒れることはないと思う人もいるかもしれませんが、白熱は熱があるので雪がとけますが、LEDは熱を発生しません。LEDの落とし穴です。そこである地域では、信号機を傾けることによって雪が積もるのを防いでいます。

生活の工夫で杉並区とのちがいを感じたのは、「二重ドアやまど」について。外の空気が家の中まで入ることを防いであらゆるドアやまどが二重になっていました。

ところで、ぼくたちが生まれるずっと前の氷河期に北海道だけは、本州とくっついていなかったの、北海道にしかない動物、たとえばエゾシカ、エゾリスなどもいるし自然がとても豊かです。名寄は星がきれいで、無数の星が広がっていました。ぼくはこれまで家族といったキャンプなどで、何回も星を見てきましたが、今まで見た中で、まちががなく、一番美しい夜の空が名寄の星空です。この事業に応じた時の作文に「大人になってもまた会いたいと思えるような、友だちを作りたい！」と書きました。今、まさにそのおりの気持ちです。最後に、名寄と杉並でできた友だちにどうしてもいいたいことがあります。北海道の人は、とてもすごい発明をしたなあと思います。

「ジンギスカン最高!!!」



学校名	東京学芸大附属大泉小学校	氏名	丸山 蒼介
-----	--------------	----	-------

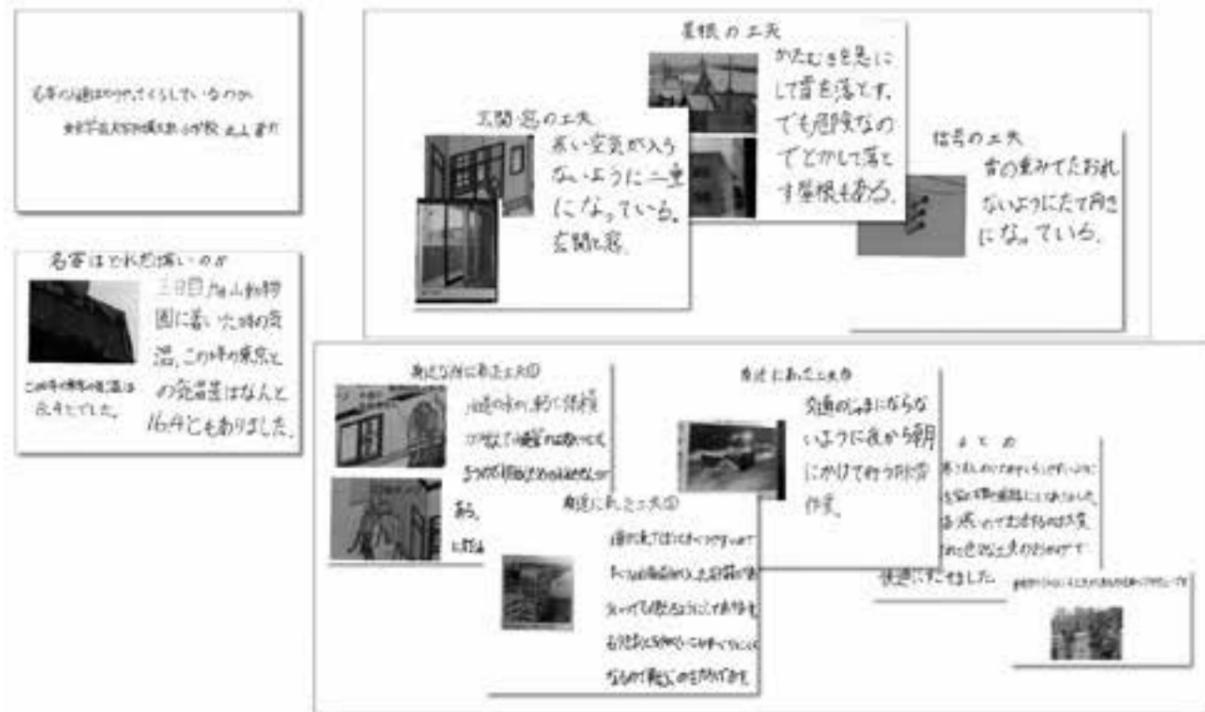
### 名寄の人達は どうやって くらしているのか

ぼくたちが名寄にいた中での最低気温は、なんとマイナス15度でした。東京ではマイナス15度なんて日はありません。ではこんなに寒い中でどうやってくらしているのでしょうか。

家にあった工夫は、屋根や玄関・窓という所がありました。屋根は、東京のものよりもかたむきが急で、雪を落とすようになっています。でも雪が人の上に落ちてしまうと危険なので、雪をとかしてから落とすヒーターのついた屋根もあります。玄関は、寒い空気が入らないように二重にしてあります。窓は、断熱性を高めるために二重にしてあります。この三つの工夫は、ぼくたちがとまったコテージにもありました。なんと、信号にも工夫がありました。杉並区のような横向きの信号だと雪がたくさんつもってしまいましたおれてしまうので、雪がつもらないようにたて向きにしてあります。

家で調べた工夫ですが、5つありました。まず1つ目は、水道管の工夫です。水道管の中の水が凍ってしまうと水道管が破れてしまうので、水道管の中の水をぬくための水ぬきせんがあります。2つ目は、かべや床の工夫です。外の寒さが中に伝わらないように、断熱材がたくさん入っています。3つ目は、灯油タンクです。いつでも暖房が使えるように、燃料の灯油をためる灯油タンクがあります。4つ目は、砂箱です。砂箱は、道路が凍ってしまえばすべりやすい時、地面にまいてすべり止めとして使う砂がいつでもまけるように道路ぞいにあります。5つ目は、除雪作業についてです。除雪は昼に行くと交通のじゃまになってしまうので、夜から朝にかけて行われています。

名寄の人達は、寒さをしのぐためやくらしやすいようにするための工夫を家や道にしていました。ぼくは始め、雪があり寒かったので生活するのは大変だと思っていたけれど、色々な工夫のおかげで快適にすごせました。



学校名	高井戸第二小学校	氏名	力丸 千洋
-----	----------	----	-------

### 本州と北海道の動物、どこが違う？

私は、動物園で実際に見たり、北国博物館で教わったりしながら、本州と北海道の動物の違いを調べました。

一つ目は、タヌキについてです。本州で見られるのはホンダタヌキ、北海道で見られるのはエゾタヌキです。エゾタヌキは、ミミズや昆虫・カエルを食べ、森林やキツネの古巣に住んでいて、一匹で行動します。また、ホンダタヌキより大型です。ホンダタヌキは、人為的なものなども食べ、人家の床下や物置等に家族で住んでいます。

二つ目は、キツネについてです。本州で見られるのはホンダギツネ、北海道で見られるのはキタキツネです。キタキツネは、ホンダキツネよりも全体的にやや大きく、耳の裏と四肢の足首の部分が黒いのが特徴です。

三つ目は、クマについてです。本州で見られるのはツキノワグマ、北海道で見られるのはエゾヒグマです。エゾヒグマは、ツキノワグマより大きく、日本にすむ最大のほ乳動物です。また、ツキノワグマはシカを食べるけれど、エゾヒグマはあまりシカは食べません。

四つ目は、タカについてです。本州にいるタカはオオタカで、北海道にいるのはクマタカです。オオタカは、「ケッケケッ」と鳴きます。クマタカは、「ピーピー」や「ピョーピョー」、「キーキー」と鳴きます。トビより大きく、後頭部の冠羽と縞模様が特徴的です。そして絶滅危惧種です。

五つ目は、ワシについてです。本州にいるのはイヌワシで、北海道にいるのはオオワシです。イヌワシは、林や岩場にすみ、ノウサギやヘビなどを食べます。「カッカカッ」や「ピーヨ」と鳴き、絶滅危惧種で天然記念物です。しかしオオワシは、海岸や川の近くにすみ、主にサケなどの魚を食べます。かたと尾の羽が白く、黄色のくちばしが特徴で「クワックワッ」と鳴きます。絶滅危惧種で天然記念物です。

私は、北海道の動物は本州より大きいと思いました。また、一匹で行動する動物が多いと思いました。



学校名	桃井第一小学校	氏名	福田 万結
-----	---------	----	-------

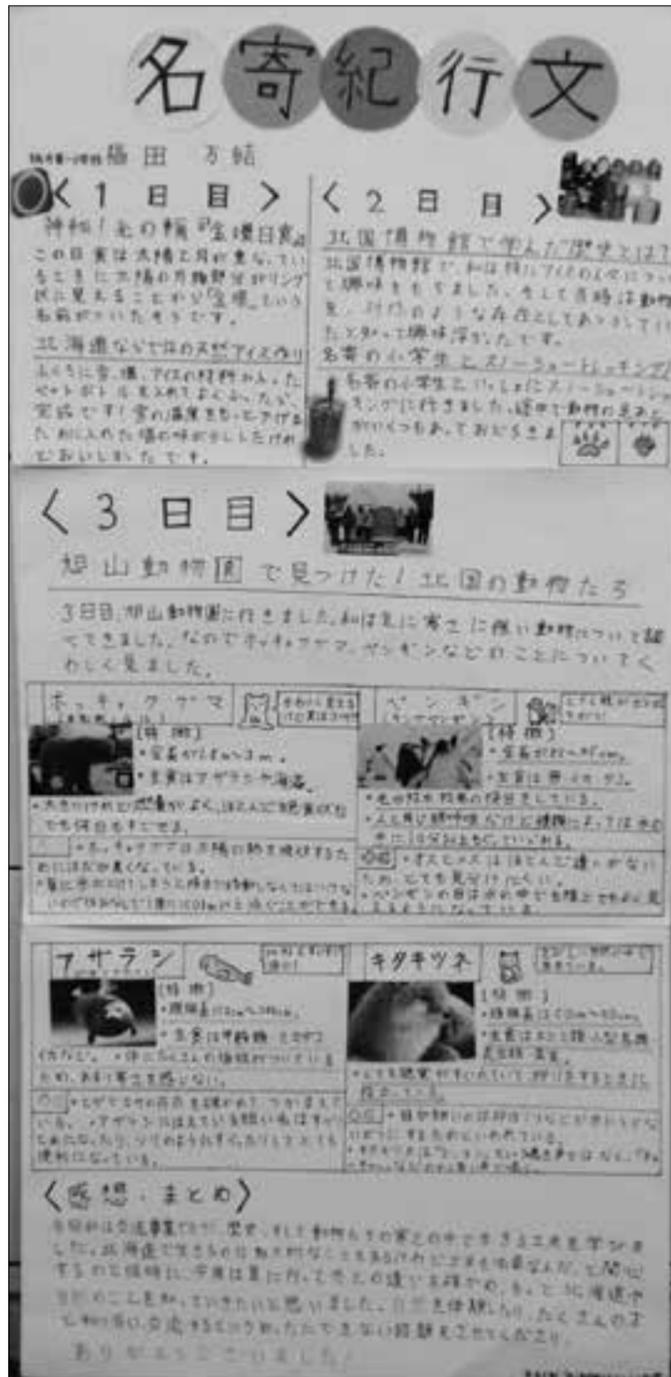
### 名寄紀行文

「うわあすごい。」二度目の北海道で、私は一番最初にこう思いました。久しぶりに雪を見たからです。この北海道で、私は特に動物について調べてきました。が、せっかく名寄に行き様々な体験をしてきたので、動物のこと以外も印象に残ったことを紹介します。

それは二日目に名寄市の小学生と交流したときのことで、たくさん雪遊びをして、記念品を交換する時間がきました。交換するのは私の役目だったので緊張していると、名寄の代表で来た子が笑いかけ

てくれました。それで落ちついて「ありがとう」と言うことができました。いっきに仲良くなれた気がして、いい思い出になりました。

さて、ここから三日目の旭山動物園の動物のことについて発表します。私はたくさんの動物を見て、学んできました。その中でさらに注目して調べたのは、寒さに強い動物たちです。人間は少し外に出ただけで寒と感じるのに、ましてや水に入ったりしているのになぜ元気に生活できているのか不思議に思って調べました。まず、最初に見たのはペンギンです。散歩をしている姿が見られると聞いたので、散歩コースに行きました。寒い中、ペンギンが元気に歩き回っているのを見ておどろき、すごいなと思いました。秘密は毛にあるそうです。ペンギンの毛は、防水防寒という役目をもっていることを知りました。同じようにホッキョクグマも調べると、ホッキョクグマのはだは黒い、ということが分かりました。地はだが黒いと太陽の熱を集めやすく、その吸収をじゃましないために毛はとう明なんだそうです。見た目からして、そういうことを思いつきもしなかったので、おもしろいなと思いました。この他にもアザラシ、キツネと色々な動物の秘密が分かりました。次にもう一度ここに来られたとしたら、夏に来て冬のの違いを確かめてみたいです。このようなたくさんの経験ができたのは、先生方や支えてくださった皆様のおかげです。一生忘れないような思い出になりました。ありがとうございました。



学校名	方南小学校	氏名	成田 悠希
-----	-------	----	-------

### 名寄に行って学んだこと

ぼくが今回名寄で学んだことは、動物です。寒さにたえる動物について調べました。その中で心に残った動物を紹介します。

1つ目は、タンチョウです。実際にツルを見たのは初めてで、意外と大きくてとてもきれいでした。

2つ目は、ホッキョクグマです。ホッキョクグマが海洋性で、体が長く流線型とはおどろきました。

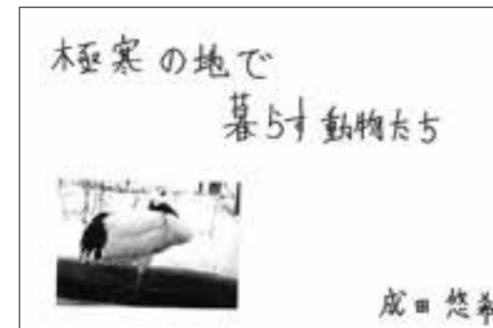
3つ目は、エゾジカです。エゾジカとホンシュウジカの違いとはなにか調べました。するとホンシュウジカはニホンジカの亜種で、違いは地域と体格だそうです。それぞれのオスの体重は、ホンシュウジカ約85kg、これに対しエゾジカは約120kgにもなります。エゾジカの大きさが心に残りました。

4つ目は、キングペンギンです。ペンギンの行進では、1羽だけ茶色いペンギンがいました。違う種類なのかなと思い調べてみると、あれはヒナだそうです。この茶色い羽毛は、来春まで変わらないらしいです。

今回、旭山動物園では、たくさんの動物を見ることができました。ここに書いてある動物以外にもおもしろい動物がいました。

この小学生名寄自然体験交流事業を通して、本やインターネットでは分らないようなことを五感を使って学習できたり、名寄の小学生とも仲良くなることができました。この事を忘れずに生活していきたいです。

そして、また名寄に行く機会があったら、今度はとてもきれいだっ星について学習したいと思います。



3 班寒い口々を送る動物たち  
「マイナスの銀世界で見てきた」

3 班寒い口々を送る動物たち  
「マイナスの銀世界で見てきた」

学校名	四宮小学校	氏名	織田 新多
-----	-------	----	-------

### 名寄と旭山動物園に行っ

ぼくが、名寄自然体験交流事業に参加しようと思った理由は、他の学校や名寄の人と友達になったり、たくさんの楽しい経験ができたりすると思ったからです。カーリングや雪合戦、天体観測など、東京ではできないことを、たくさん体験させていただきました。きたすばるでは、東京からでは見えない数の星が見え、星がこんなにきれいでたくさんあることを知りました。北国博物館では、アイヌの人のくらしや北国の動物について学び、旭山動物園にいたニホンザルが三匹だきあっている姿がかわいいと思いました。そこで動物が寒さから守る工夫について調べました。

ニホンザルがだきあっているのは、温め合っているからです。他にも夏と冬で毛の色が変わり、夏ではさっぱりしていて、冬は細い毛がみっしりはえ、ボリュームがでます。ニホンザル以外にも、夏と冬で毛の色が変わる動物が旭山動物園にいました。エゾユキウサギは、冬には真っ白な毛になり、夏は茶色の毛になります。夏毛の時期にはふつう夜だけ活動し、冬毛の時期にはエサが少ないため昼間も採食活動をし、雪に埋もれた植物を掘り出したり、木の枝や芽をかじったりしています。旭山動物園で見たユキウサギは、雪とほとんど同じ色をしていて、見わけがつきづらいほど真っ白できれいでした。夏毛のユキウサギもみてみたいです。

クマには、他のほ乳類にはない特徴があります。他のほ乳類が冬眠する場合、体温をうみだすエネルギーを節約するため、体の働きをにぶらせます。そのため、冬眠中は体が冷たくなり動けないのです。一方クマは、冬眠中も体温があまり下がらなく、冬眠から目がさめても動きだせる状態が保たれます。

ある日、子連れ母グマが人里に現れ、人間の安全のためやむなく母グマは射殺され、子グマは旭山動物園に引きとられています。子グマはトンコと名付けられ、かわいがられています。人とクマなどの動物が共存できるために、山の自然を守ること、豊かな森を守ることが大切だと学びました。

とても楽しい三日間でした。いつか名寄の自然現象も見てみたいです。



学校名	方南小学校	氏名	渡邊 紗良
-----	-------	----	-------

### 初！ マイナスの世界での名寄生活3日間

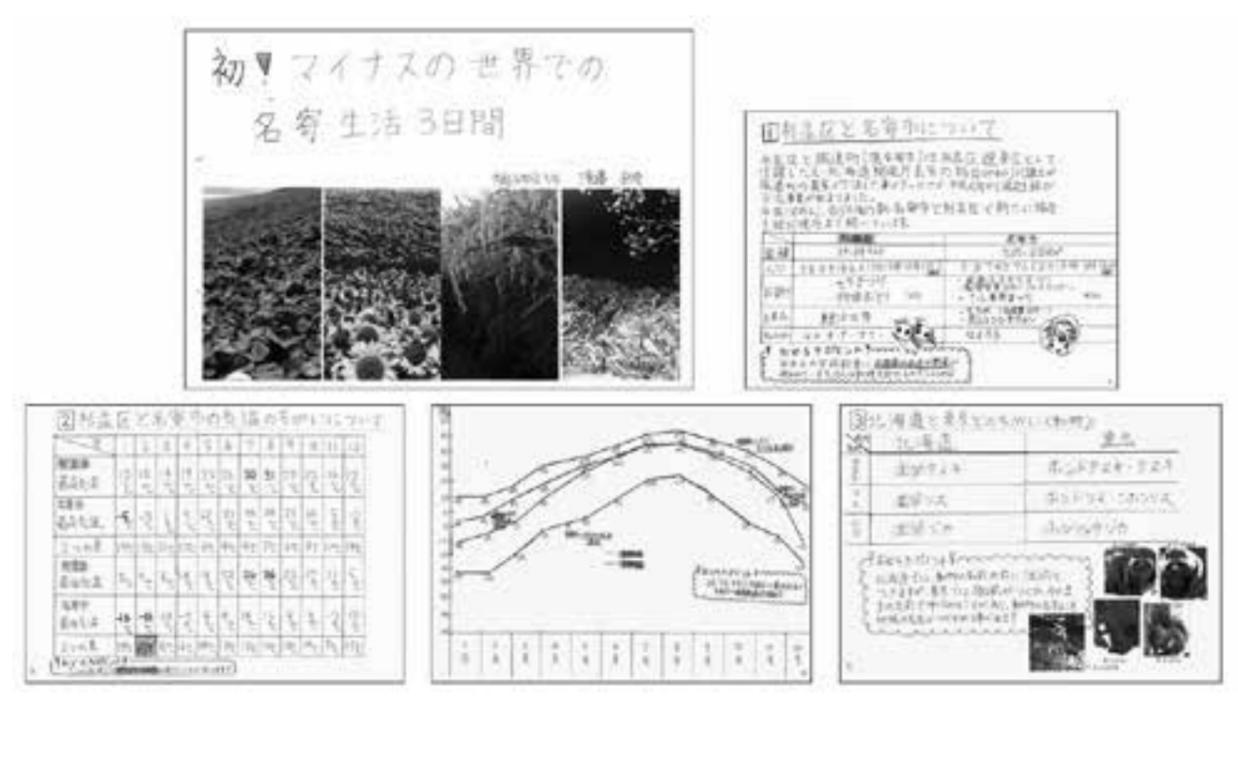
私が名寄で学んだ事は2つあります。

1つ目は、マイナスの世界で過ごす動物達について北国博物館と旭山動物園で学ぶ事ができました。北国博物館では、動物の呼び名が東京と北海道では違い、例えば東京ではホンドタヌキがタヌキと呼ばれていますが、北海道ではエゾタヌキと地名をつけて呼ばれている事が分かりました。またアイヌの人々は、神様が動物の毛皮を着てやって来たと考え、動物の毛皮を服として生活していました。

私は、4年の自由研究で鹿について調べました。旭山動物園では本物のエゾジカに会う事が出来ました。エゾジカは北海道にしか住んでいない事、体重はオスで約140kg、メスで約100kgあり、実際に見たエゾジカは想像していたよりも大きくてびっくりしました。因みに奈良の鹿は、オスで約80kg、メスで約45kgでエゾジカの半分位しかなく、気候や食物が違うだけでこれだけの体格差がでる事、そしてエゾジカが害獣である事も知りました。他にも、本州から北海道へ猫を連れていくと寒さから身を守るために毛が伸びるようで、新たな発見もありおもしろかったです。

2つ目は、友達や先生との出会いです。私は今まで一度も引越をした事がないのでいつも周りには知っている人がいました。初めは緊張したけれど、3回の交流会の中で勉強したおかげで仲良くなれました。また兄の野球チームのお父さんが名寄出身で、しかも市長さんと幼なじみと分かり、今まで全く縁がなかった名寄に行くのがとても楽しみになっていきました。名寄の子達とスノーシュートレッキングをしたり、雪遊びをしたり、博物館の人と動物の足跡を見つけたり、東京ではできない体験をする事が出来て嬉しかったです。

私が過ごした3日間では、野生動物を見る事は出来なかったけれど、足跡は見れて、動物達が安心して暮らせる森が名寄にはあるのだなと思いました。またぜひ名寄に行きたいです。貴重な体験が出来て最高な3日間でした。



3 班寒いロケを送る動物たち  
マイナスの銀世界で見てきた！

3 班寒いロケを送る動物たち  
マイナスの銀世界で見てきた！

学校名	筑波大学附属小学校	氏名	今井 千尋
-----	-----------	----	-------

### 日本一の生産を誇る名寄のもち米との出会い！

今年の夏、家族で伊勢神宮を訪れたときに食べた「赤福」が、名寄産のもち米で作られたものとはまったく知りませんでした。とてもおいしく、名寄研修では、もち米についてより深く調べてみたいと思いました。

北海道名寄市は、日本最北にしてもち米の一大生産地です。東京ドーム約600個分、杉並区とほぼ同じ面積の田んぼでもち米が作られ、市内の水田の9割にあたります。出荷量も北海道全体の3割強です。主なもち米の種類は、はくちょうもち・風の子もち・きたゆきもちの3種類です。とりわけはくちょうもちは、伊勢名物の「赤福」・岡山県名物のこう栄堂の「元祖きびだんご」・ロッテの「雪見だいふく」の原料に使われています。

しかしながら、このもち米栽培に至るまでには、大変な苦労がありました。戦後の食糧不足のときには、奥地へと水田を広げ、苦労の中稲作作りをしましたが、北海道のうるち米の評価は低く、厳しい気候の中で行き詰まりました。そこで昭和45年には、もち米栽培に着手し始め、10年後にはすべての水田をもち米に切り替えました。ついに昭和56年、風連町もち組合の設立により、もち米の生産団地指定が

実現します。うるち米の混入しないもち米作りをめざし、生まれた名寄産のもち米はやわらかく粘りがあり、時間が経ってもかたくなりにくいのが特徴です。また、国内初の雪氷熱エネルギーによるゆきわらべ雪中蔵の完成・色彩選別機の利用や基盤設備の完成等により、ブランド米としての販路の拡大や農業産出額の向上へとつなげました。

名寄市を知らなかった私も、事前研修や現地の体験交流を通し、いろいろと知ることができました。初挑戦のカーリングは、転んでばかりでした。お土産のソフト大福は、もっちもちでとても美味しかったです。名寄での出会いや体験は最高の思い出です。この研修に携わり、指導いただきました名寄市及び杉並区の方々、先生方に感謝したいと思います。



学校名	四宮小学校	氏名	小野寺 美岬
-----	-------	----	--------

### アイヌの人々とくらし

私は、アイヌの人々とくらしについて北国博物館で調べた。アイヌの人々は自然のものについて、「すべて神様からもらったもの」なのだから、必要な分だけいただいて大切にするという考えを持っているそうだ。私は、アイヌの人々のこのような考えはすばらしいと思った。自然のものを必要以上に取ってしまうと、他の動物の食べ物が減ったりするなどのえいきょうがおよんでしまうからだ。

そこから読み取れることは、物を大切にすることだ。アイヌの人々の服は、主に木綿などであるが、その木綿はアイヌの人々が北海道でとれるコンブなどの特産品と、和人と交易をして手に入れたそうだ。木綿の生地が少しやぶれてしまっても、服を作ったときに余った生地をつぎ足して、もようのようにしていたそうだ。

けれど、現代人はやたらと新しいものを買って、一つ一つのものを大切にしない。私はそう思い、これからは前よりもっとものを大切にしようと思った。

また、アイヌの人々は寒い冬を、「火」を工夫して使い、乗り切っていた。この「火」は現代でいうだんぼうや家のあかり、ガスコンロのかわりとして使っていたそうだ。火をいろいろの中でたき、明かりとし、だんぼうとし、その火の上になべをつるしてガスコンロとしたそうだ。現代に生きる私が考えると、省エネで環境にも優しいと思った。

そして、アイヌの人々は神様は自分達の前ではクマやシカ、フクロウの姿をして現れるという考えを持っていたので、山や森の中で動物をしとめると「カムイヨマンテ」や「イヨマンテ」とよばれる神様を「神の国」に送り帰す儀式をしていたそうだ。

私は、このことから、私たちのくらしは豊かになってきているが、環境にはどんどん負担をかけているから、昔の人々の環境に優しくくらしを見習い、参考にすることが大切だと思った。



学校名	西田小学校	氏名	山口 大陽
-----	-------	----	-------

### 名寄で学んだ3日間

ぼくは主に歴史について学びました。

名寄には、昔アイヌという民族が住んでいました。アイヌ民族は、4万年前まだ日本がユーラシア大陸と陸つづきだったころ、マンモスやオオツノジカを追って北海道にやってきました。アイヌ民族は移動しながら生活していましたが、石器や土器を作る技術が発達し、食べる物を保存できるようになったり、気温が上がり植物や木がはえてきたので、人々は村をつくり集まって暮らすようになりました。そして今の名寄や他の町ができたのです。

名寄はとても寒い所です。ぼくが名寄に行った時は、マイナス12度まで気温が下がっていました。そんな名寄には、寒い所だけにある工夫が家や道路にされていました。家の屋根には雪が落ちやすいように角度をつけたり、石油ストーブの灯油をためておく大きなタンクがあります。道路の白線が雪で見えなくなった時のために白線の上には矢印がついていました。寒い所ならではの食べ物もあります。煮込みジンギスカンです。最初ぼくは焼き肉だと思っていたけど、なべ料理だったのでびっくりしました。お肉を食べてみると、やわらかかったけど、ちょっとにがかったのでぼくにとっては苦手な味でしたがとても体が温まりました。

他に天体観測やスノーシュートレッキング、雪遊びをしました。天体観測では「冬は雪の日が多く星があまり見られない。」と聞いていましたが、空が晴れてすばる流星群や、ベガなどを望遠鏡で観られてとてもうれしかったです。雪遊びでは名寄のお友達とソリスベリや雪合戦をしました。名寄の雪はサラサラで、ソリから落ちたり雪玉があたっても痛くありませんでした。名寄の子たちと仲良く遊べてとても楽しかったです。

名寄で学んだ3日間はたくさんの自然とふれあい、東京ではできない体験をたくさんさせてもらいました。寒い所で暮らすことはとても大変だけど、ぼくは冬の北海道が大好きになりました。



4班知しつゝ、名寄の歴史

学校名	堀之内小学校	氏名	高橋 月音
-----	--------	----	-------

### 名寄で学んだこと

私は、この名寄でいろいろなことを学びました。まず、北国博物館で学んだことを紹介します。北国博物館で学んだことは2つあります。

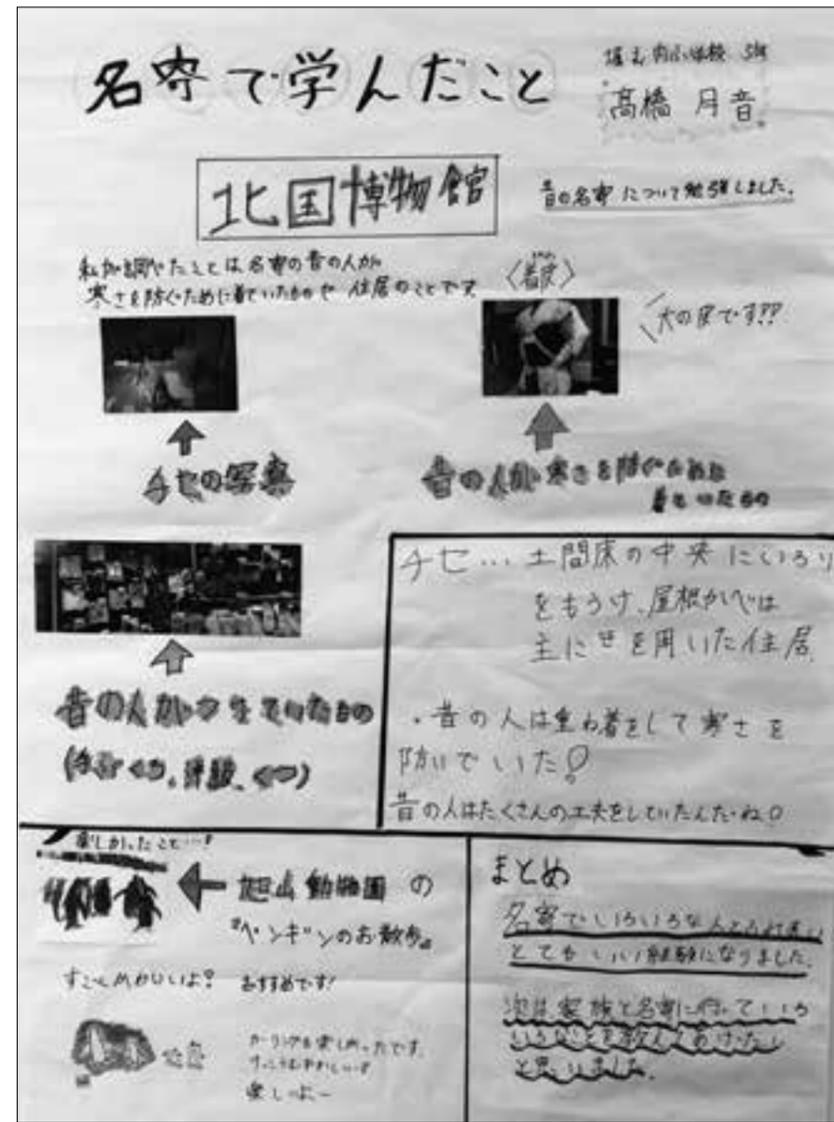
1つ目は、昔の住居についてです。名寄のある道北地方の通常の住居は「チセ」と呼ばれ土間床の中央にいろりをもうけ、屋根、かべは主に笹を用いた住居です。多くの住居は、母屋と入口を兼ねた納屋の二室構造です。その母屋の中央にあるいろりで暖房と炊事をします。暖房は、たき火による直接の輻射熱と、かべの内側にそって巻きつけたしき物からの間接的な輻射熱が主です。納屋の部分は、冷たい外気が入りこまない風よけの役目をします。チセは、熱をにがさない工夫を行い、輻射熱を有効に使った住居といえます。

2つ目は、衣類による寒さの防ぎ方です。日本の伝統的な和服は、重ね着をする事により防寒の効果を上げられる衣類です。開拓者も木綿の布地に糸をさす『さし子』や『綿入れ』の方法で防寒の工夫をしました。昭和30年代には、多くの家庭で羊が飼われ手織りの羊毛製品が昭和40年ごろまで家庭で

作られました。はきものは、わら細工のもののはは丈夫で機能的なゴムのものがふ及しました。このように寒さのきびしい名寄に住む人たちは、住居や衣類の工夫をして暮らしてきたことがよくわかりました。

次に、私がこの名寄で楽しかったことを紹介します。それはカーリングです。私は、あまりカーリングに興味がありませんでした。でも、この名寄でカーリングをやってみたらとても楽しいということがわかりました。難しかったのは、ストーンを投げるときに強さです。思い通りの所に投げられたときは、とてもうれしかったです。

最後に私は名寄でいろいろな人とふれあってとてもいい経験になりました。次は家族と名寄に行っているいろいろなことを教えてあげたいと思いました。



4班知しつゝ、名寄の歴史

学校名	堀之内小学校	氏名	富山 汰樹
-----	--------	----	-------

### 楽しかった名寄での天体観測と思い出

名寄での天体観測でさまざまなことを学びました。星の種類や星座の特ちょうなどを教えてもらい、多くのことが分かりました。例えば、北極星は北の方向を示しています。北極星は、ほとんど動かないので昔はコンパスがなくても北極星を見ればすぐに北と分かるようです。さらにプラネタリウムでは、南半球で、まだ見たことのない星座がたくさんありました。南半球でしか見られない南十字、ほかに文ぼう具の名前を使った星座もありました。コンパス座、南の三角座、じょうぎ座、なるほどと思いました。きたすばるでは、ふたご座やオリオン座がはっきり見られました。更に夜空を見ていたら不思議な光が落ちていきました。金星などもきたすばるでじっくり見られました。オリオン座のリゲルやカシオペア座、秋の四辺形などが夜空にたくさん見えました。自分の目で確かめられてよかったです。ますます星を調べてみたくなりました。名寄で一番楽しかったのは旭山動物園です。名寄へ行く前に旭山動物園の動物達が、冬、どの様に生活しているかを知りたかったのですが、実際行ってみると冬なのに冬眠せずに生活していました。実際自分の目で雪の中で生活する動物達を見て良かったです。ペンギンの散歩も、雪が少なくで見られないかもしれませんが、ぶじ雪が多くなって長く見られてうれしかったです。特にペンギンの赤ちゃんがまっ茶色でふさふさで、それを間近で見れて良かったです。楽しみにしていた名寄の子供達との交流、ソリ遊びや雪合戦をしました。雪合戦では、ぼくがめちゃめちゃ的のように当てられましたが、サラサラの雪だったので痛くもかゆくもありませんでした。寒さに負けず、みんな元気よく遊んでいました。いい思い出となりました。最低気温マイナス15度を経験しました。顔がピリピリして痛いほどでした。全てが良い経験でした。名寄のみなさん、先生方ありがとうございました。



学校名	八成小学校	氏名	比田 柗真
-----	-------	----	-------

### 名寄で学んだこと

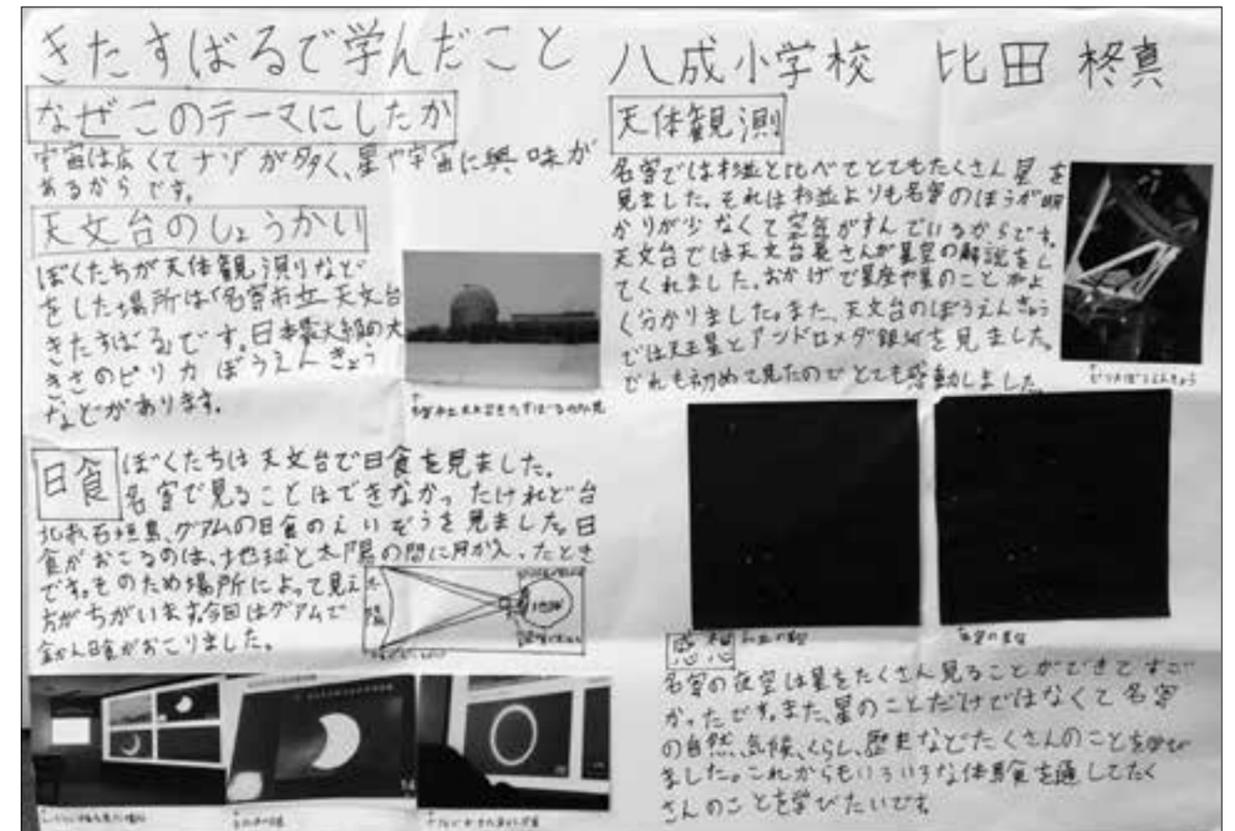
ぼくが名寄に行って心に残ったことは、3つあります。

1つ目は、名寄の星空です。名寄の星は杉並と比べてたくさん見えます。それは、杉並よりも名寄のほうが明かりが少なくて空気がすんでいるからです。天文台では天文台長さんが星空の解説をしてくれました。そのおかげで星座や星のことがよく分かりました。また、天文台の望遠鏡でも星を見ました。見たのは、すばると天王星とアンドロメダ銀河です。どれも初めて見たので、とても感動しました。

2つ目は、名寄の雪です。名寄の雪はとてもさらさらしていて、雪玉を作ろうとしてもすぐにくずれてしまいました。また、雪が積もっている所を歩くと足がうもれてしまいました。名寄の雪がさらさらしている理由は、雪がとてもかんそうしているからです。また、杉並で雪がふるのは、1年に1~3日くらいですが、名寄にいる期間では毎日雪がふりました。その理由が知りたいなと思いました。雪がたくさんふるといことは、雪がたくさん積もります。そのため、旭川空港から出たら杉並とは全くちがう景色でおどろきました。雪遊びはなかなかできないので、雪遊びをしたときはとても楽しかったです。

3つ目は、名寄の人の暮らし方です。バスに乗っていると道路の上に矢印がたくさんありました。これは雪がふって積もった時に、どこからどこまでが道路かが分かりにくくなるので、道路のはしを示しています。また、ほとんどの家の屋根がかたむいていて雪が落ちるようにしてありました。

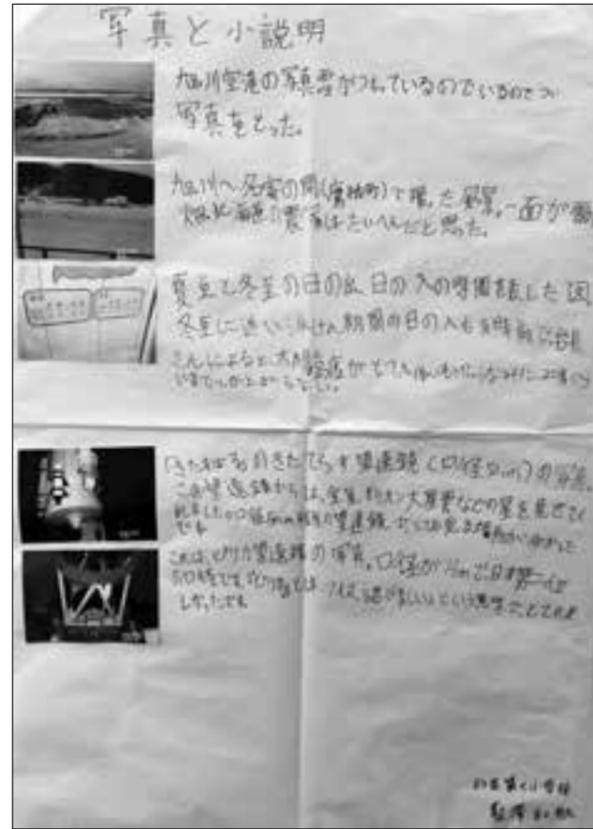
今回の交流事業で名寄の自然、気候、暮らし方などたくさんを知りました。これからもいろいろな体験を通してたくさんを知って未来に役立てていきたいです。



学校名	杉並第七小学校	氏名	藍澤 和航
-----	---------	----	-------

### 名寄の星空かんさつ

毎日夕方に、「きたすばる」に行きました。一日目は、雲が多くて、日食は名寄では見られませんでした。石垣島、台北、グアムから中継を繋ぎ、グアムでは金環日食が見られました。しかし、名寄の日没は、早く、16時前に日没しました。冬至の日没時間は、石垣島より2時間以上早いそうです。(石垣島18時1分、名寄15時56分)。一日目は雲っていたため、日食や太陽高度などをプラネタリウムで学びました。ちなみに次の日食は、2020年6月21日だそうです。それをのがすと、2030年6月1日まで北海道で見られないそうです。また、2030年6月1日の日食は、金環日食で、北海道でしか見られないそうです。また、北北海道(宗谷地方)、南北海道(渡島、檜山地方)では、見られないそうです。名寄市では見えるそうです。名寄は、北に位置するので、北の空を見るのにとても条件がよいそうです。冬の北斗七星は、北海道で全体が見え、東京で一部が見え、沖縄では見えないそうです。しかし、南の空を見るには、条件が悪いそうです。二日目は、朝ごはんを食べているときや、名寄の友だちと雪遊びをしているときは、雲っていたから、見えるかわからなかったけど、曇りの間に星が見え、星を見ることが出来るようになりました。そして、オリオン座などの星座を見ることができました。また、その後に、メインの望遠鏡を見に行きました。兵庫県立西はりま天文台につぐ、日本第二位の口径の望遠鏡で星座を見ることが出来ました。館内も、いろいろな展示物があり、隕石を見ることができたり、太陽系最大の山「オリンポス山」の模型など、いろいろな展示物もありました。二日間、「きたすばる」で、氷点下の寒い中、写真ではなく、実物を見ることができたので、とてもいい経験になりました。



学校名	杉並第九小学校	氏名	大澤 瑞樹
-----	---------	----	-------

### 名寄の夜空

ぼくは、名寄自然体験交流の手紙をもらった時に、星の写真を見て、名寄に行って東京と名寄の星の見え方の違いや、きたすばるの事を調べたいと思いました。名寄に行って学んだことを発表します。まず、きたすばるがある場所は、周りに何もなくて一面雪でおおわれていて、東京と違い電柱や人工灯がありませんので、空にすいこまれそうになりました。そして、ぼくたちが到着した日はうれしい事に日食の日でした。でも残念ながら名寄では曇りで太陽が見られませんでした。石がき島、グアム、台北とネット中けいで、観察する事が出来ました。ぼくは、日食を見た事がなかったの、肉眼で見る事は出来なかったけれど、いろいろな場所の日食が同時に見ることができてとても感動しました。次は、きたすばるについてです。きたすばるの中には、ピリカ望遠鏡があり、日本では、2番目に大きい望遠鏡です。ドーム型の天上が開き、夜空を観察することが出来ます。ぼくたちは、2日目に星を見る事が出来ました。東京と比べて見える星の数があつう的に多く、金星やすばるとよばれる星団を見ることができました。星には色があり、赤、青、白などの色がある事も分かりました。



夜、外で実験も行いました。1つ目は、水を入れたコップと、ふつとうしたお湯を入れたコップを外に置いておくとうなるか。2つ目は、ぬれたタオルをふり回す実験です。結果は、いろいろな形の結晶が見れて、写真もとれたり、タオルもカチカチに凍ってとても楽しかったです。今回参加して、最初は同じ学校の友達も居なくて、不安だったけれど、交流事業でのいろいろな経験を通じてみんなとも仲良くなれました。また、名寄にも友達が出来ました。東京では経験する事の出来ない寒さや、カーリングなど楽しい体験。全てが良い思い出になりました。また名寄に行きたいです。

5班 東京と名寄の星の見え方について

5班 東京と名寄の星の見え方について

学校名	済美小学校	氏名	阿尾 進之介
-----	-------	----	--------

### 東京の星空、名寄の星空

都会では星が見えないと言われることもありますが、そんなことはないと思います。冬の大三角も北極星も見つけることもできますし、金星もISSもきれいに光っていて僕は杉並から見る夜空も好きです。

しかし名寄の夜空はやはり圧倒的でした。なぜ東京と名寄ではそのような差ができるのでしょうか。

まず、地上の光の量が違うことです。東京では多くのネオン・外灯・家の明かりなどが夜でも光っています。それらによって空が明るく照らされるため、星の輝きはうすれ、ボンヤリと目立たなくなり、見るのが困難になってしまいます。

次に気温の差です。当然ながら名寄はとても寒いので。そうすると空気中にただよっていた水分が水滴になり、光の屈折が少なくなります。光がまっすぐ届くため、よりくっきりと星をとらえることができるようになります。

最後に、日没時刻の差です。実は太陽の光は日没後も少し残っています。早く太陽が沈み夜が長くなれば、その残った光もうすまり、空がより真っ黒になります。冬は杉並より名寄の方が日没が早いので、より暗い空で星の輝きが際立ち、さらにきれいな星空になります。

今回名寄で、あの満天の星空を見ることができたのは、僕にとってとてもき重でとても有り難い体験でした。ネオンの裏にはたくさんの星がかくれていることを頭のすみに置きながら、これからも東京の夜空を楽しみたいと思います。

最後になりますが、僕と一緒に名寄に行ってくれたみなさん、先生方、本当に有り難うございました。

今回見られなかった日食がまた見れるときに、日食をみなさんと一緒に見てみたいです。



## 想いを形にした小学生名寄自然体験交流事業

杉並区立高井戸第三小学校 校長 馬場 章弘

なにはともあれ、最初は区報や学校で募集を聞いて「行きたい!」と思ったところがスターです。ただ応募するだけでなく、その想いを400字程度にまとめて提出しなければなりません。それを教育員会で全員分読み、「この子は行ってもらう価値があるのかどうか」ということを判断します。そのあとに応募者多数のため抽選が待っています。68名から25名へ。この抽選で当選したところから、「想い」を具体的にしていける作業が始まりました。

よる、区役所に集まって結団式。11月8日(金)のことです。班分けと自己紹介などが続く中で、「冬の名寄に行って自分が体験したいこと、見たいこと」は本当は何なのかについて、自分自身に問う作業が始まりました。まだ行ったことのない「名寄」、極寒の地であることとアイヌ先住民がいたことなどはわかっていますが、そこに積もる雪を触ったこともなければ氷点下の気温を体験したこともたぶんなかったことと思います。私が担当した行動班5班は「星」がテーマでした。名寄と東京は緯度が随分違うので星の位置が違って見えるはず。「名寄と東京を比べてみよう。行くまでに夜空を眺めておこうね。」と声をかけました。ところが、2019年は秋から冬にかけて東京は珍しく雨や曇りの日が多く、すっきり晴れて星が見られたのはほんの数日というありさまでした。

ろくに東京の夜空が見られないのですから、名寄で果たして星が見られるのか不安が広がってきました。他のテーマで追究しようとしている子供たちも、実際のところ漠然とした想いが「絶対これを見てきたい」と具体的なものになるまで苦労したのではないのでしょうか。

今回は、部分日食という特別な天体イベントも予定されていました。でも、旭川空港の天気は曇り。予定通り「きたすばる天文台」に到着したものの、やはり曇り。肉眼での日食の観察はできませんでした。でも、天文台と交流がある台湾の天文台や「金環日食」になるグアムの天文台をインターネットで中継して見せてくださいました。

うれしいことに、そのあとは空が晴れて夜にはきれいに星が見えるようになり、「ピリカ望遠鏡」で天王星を見せていただいたりプレアデス星団を見せていただいたりすることができました。子供たちからは思わず「おおー」と声が出ていました。その後も名寄の皆さんと交流をしたり北国博物館で学んだり、そりや雪合戦で遊んだり。楽しい3日間でした。

りゅっくにたくさん詰め込んだのは、お土産ばかりでなく実際に体験した名寄の冬の生活・遊び・星空だったのではないのでしょうか。それらが一つの形となったのが、学習成果発表会でした。最初に漠然としていた「想い」は実際の体験を経て具体的な形となりました。どの子もセッションのホールで自分の調べたテーマについてしっかりと発表し、発表することがまた、子供たちの良い経験となったはずです。

うみの苦しみ、子供たちが発表するための資料をまとめるには、お家の方のアドバイスやご協力もあったことと思います。ありがとうございました。おかげで、子供たちは自分の「名寄に行きたい想い」を形にするプロセスを体験することができました。そして、このような貴重な体験をする機会をくださった、次世代育成基金にご協力くださった多くの区民の皆様にご心より感謝申し上げます。

※ちょっとした謎解き、わかりましたか?

# 保護者の感想

・都心部からは想像できない自然を実際に体験することができ、忘れられない経験になったようです。宝物のように名寄での思い出話をしている子どもの姿を見ることができ、うれしく思いました。

・一番感動したことは、名寄の星空だったようで、東京に戻った後も、空を見ながら星座のことを詳しく説明してくれました。

・雪国ならではの体験を通して、楽しさや厳しさを知り、心が強くなったように感じました。言葉に実感を伴った力強さを感じ、「百聞は一見にしかず」がいかに大事かを再確認しました。

・学校生活とはまた違った中での初めての体験で、子どもの世界が広がったように感じました。

・名寄の雪質とにかく感動していました。

・杉並とは全く異なる気候を体験し、本当に寒かったと聞きました。そのような中で、名寄の人々が工夫して生活していることに関心を持ったようでした。

・事前の学習会、名寄での実際の体験、発表作品づくり、そしてセッション杉並での発表まで、充実した体験をさせていただき、本人にも達成感があったようです。

・満天の星空の観察、厳しい寒さや大自然に触れることができ、とても良い経験ができたと思います。

## お世話になった方々

道北自然観察指導員会のみなさん、  
NPO法人なよろ観光まちづくり協会のみなさん、  
名寄カーリング協会のみなさん、  
名寄市役所の職員のみなさん

そして名寄市のみなさん

本当にありがとうございました!

## 令和元年度 名寄市と杉並区の交流事業を下記のとおり行いました。

アスパラまつり・名寄市写真展	杉並区役所で名寄市特産のグリーンアスパラガス等の販売と名寄市風景写真の展示をしました。	令和元年 6月5日～7日
白樺まつり	東京高円寺阿波おどり親善訪問おどり団(31名)と区代表団(5名)が名寄市を訪問し、まつり会場で踊りを披露しました。	令和元年 6月15日～16日
名寄市、東吾妻町、杉並区交流・友好自治体協定締結30周年記念式典	名寄市との交流自治体協定締結30周年を記念し、杉並区にて式典および交流夕食会を開催しました。	令和元年 7月6日
初夏のなよろを楽しむツアー	交流30周年の記念事業として、天文台見学やそば打ち体験ができる区民向けツアーを開催し、随行含む28名が参加しました。	令和元年 6月21日～23日
東京高円寺阿波おどり大会	名寄市代表団(4名)・おどり団(20名)をお招きし、交流自治体連として踊りを披露していただきました。	令和元年 8月24日～25日
一足早い秋の収穫祭	杉並区役所でトウモロコシ(ゴールドドラッシュ)等を販売しました。	令和元年 9月12日～13日
秋の物産展	阿佐谷ジャズストリートの期間に、かぼちゃ・じゃがいも・たまねぎ等を販売しました。	令和元年 10月25日～26日
杉並の魅力発見ツアー	交流30周年の記念事業として、阿佐谷ジャズストリート見学等を目的とした名寄市向けの杉並区訪問ツアーを実施し、16名の市民が参加しました。	令和元年 10月25日～27日
すぎなみフェスタ	交流自治体合同物産展に出展し、なよろ煮込みジンギスカン等の物産販売を行いました。	令和元年 11月2日～3日
杉並区・名寄市子ども交流会	夏休みに、両自治体の小学4～6年生(25名)が、相互に訪問し交流を深めました。	令和元年 7月28日～31日 8月5日～8日
なよろ雪質日本一フェスティバル	杉並区代表団5名が名寄市を訪問し、「おらの雪像見てくれコンクール」にて区長賞・議長賞の表彰を行いました。	令和2年 2月8日～9日
冬のなよろ写真展	名寄市にて作成している冬カレンダーの掲載作品および応募作品の一部を杉並区役所にて展示しました。	令和2年 2月10日～14日

## 令和元年度 小学生名寄自然体験交流事業報告書

令和2年3月発行  
編集・発行 杉並区教育委員会事務局生涯学習推進課  
〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1  
☎03-3312-2111(代表)

☆杉並区のホームページでご覧になれます。http://www.city.suginami.tokyo.jp

登録印刷物番号

31-0121

# 北海道名寄市のご案内

北海道の北に位置する名寄市は、天塩川と名寄川が豊かな恵みをもたらし、もち米は日本一の作付面積、アスパラガスは日本有数の収穫量を誇る農業を基幹産業とする都市です。夏と冬の寒暖差が最大で60℃にもなり、日本最大級の望遠鏡を持つなよろ市立天文台きたすばるや、雪質日本一ともいわれるスキー場などがあります。

杉並区と名寄市の交流は、平成元年7月に旧風連町と交流自治体協定を結んだことに始まります。その後、区民を中心とした幅広い交流が続いてきましたが、平成18年3月には旧風連町と旧名寄市とが合併し、新しい名寄市としてスタートを切りました。杉並区と新名寄市は、これまで築いてきた両自治体の関係をさらに発展させていくため、平成18年6月に協定を再締結し、より一層の交流を深めています。



北国の春を彩る芝桜



夏のひまわり畑

## 名寄市のデータ

面積 535.23 km<sup>2</sup>  
 (杉並区 34.02 km<sup>2</sup>)  
 人口 27,267 人  
 世帯数 14,309 世帯  
 (令和2年1月末現在)



秋のコスモス畑



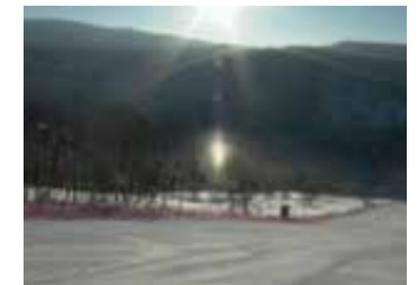
名寄市  
観光キャラクター  
「なよろう」



雪質日本一!ピヤシリスキー場

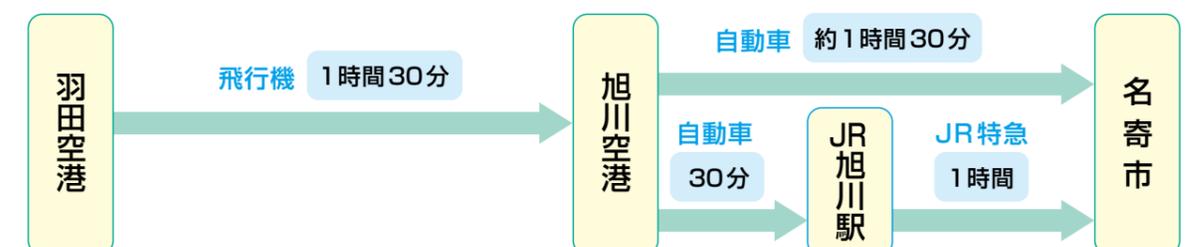


なよろ市立天文台「きたすばる」



神秘的なサンピラー現象

## 名寄市へのアクセス



# 子どもたちの夢を育てる 『杉並区次世代育成基金』を応援してください

『杉並区次世代育成基金』は、次世代を担う子どもたちが、自然・文化・芸術・スポーツなど様々な分野における体験・交流事業への参加を通して、視野を広げ、将来の夢に向かって健やかに成長できるように支援するための、区独自の仕組みです。名寄自然体験交流も、本基金を活用して実施しています。

今年度も、本基金設立の趣旨にご賛同いただいた皆様から、多くのご寄付をいただいております。

これからも、より多くの子どもたちが、名寄自然体験交流をはじめとする基金活用事業に参加・体験する機会を得られるよう、次世代育成基金への応援寄附に引き続きのご協力をお願いいたします。

## 〈令和元年度のその他の基金活用事業〉

国内子ども交流会 名寄市 7/28～31 東吾妻町 8/5～8	小学4～6年生50名が、杉並子ども親善大使として、北海道名寄市、群馬県東吾妻町の子どもたちとの相互交流を行いました。
中学生小笠原自然体験 3/26～31(中止)	中学生30名が、世界自然遺産の小笠原の自然環境や歴史を学び、現地の人たちとの交流を行う事業です。 ※令和元年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い派遣を中止しました。
交流自治体中学生親善野球大会 12/26～29 (台湾台北市開催)	杉並区と交流のある台湾台北市で南相馬市、台北市の中学生と親善野球大会を行い、親善試合や交流体験を通じて、健全なスポーツ精神を培うとともに、異文化理解・国際理解を深めました。
中学生海外留学 8/13～25	中学生25名が、約2週間にわたってオーストラリア・ウィロビー市でホームステイをしながら、海外の生活・文化を学び、現地の同世代の学生と交流し、国際理解を深めました。
チャレンジ・アスリート 競技体験：8/25、10/22、2/16 職場見学：2/1、2/8、2/9、2/11、 3/8※	小学生～中学生を対象に、元オリンピック選手と一緒にスポーツをしたり、パラリンピック種目の体験を行いました。また、小学校高学年～高校生を対象に、スポーツ関連の職場見学を行いました。 ※3/8については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、見学を中止し、参加者へ見学先の資料を送付しました。
サイエンスホップス 科学実験教室 4月～3月	小中高生を対象に、生活に身近な科学を体験する科学実験教室を開催しました。
杉並・テキサス交流プロジェクト 6月～3月	小学生が手紙やビデオレターを通じてアメリカの小学生と交流しました。
わぐわぐ寺子屋プロジェクト 8月、1月	「生きるために自分で考える力」を養う、をメインテーマに、杉並の小学生のための寺子屋を、新潟県小千谷市で実施しました。
Embassy Journey (大使館めぐり) 日本の中の外国へ行こう 8/5、8/22	小学生が自ら計画し、夏休み期間中に「大使館めぐり」の日帰りツアーを実施しました。
『ITにふれるキッカケ』 ～杉並こどもIT Day～ 7/31	小学4～6年生を対象に、PCやタブレットを使い、ロボットプログラミング、作曲など、身近な題材からITの可能性を体験できるワークショップを実施しました。
杉並 English ガイド Jr. プロジェクト 5月～9月	中学生を対象に「高円寺阿波おどり」会場で英語ボランティアを行うために、必要となる英語の能力や知識を身につける講座を実施しました。
ボールキッズ取材班夏休みプロジェクト 「広報・東高円寺」を作ろう！ 7/30、7/31	東高円寺を舞台に、地域をグループで協力しながら取材し、1冊の情報誌を制作するプロジェクトを実施しました。



## 【次世代育成基金への寄附申出・問い合わせ先】

杉並区子ども家庭部 児童青少年課青少年係

〒167-0051 杉並区荻窪一丁目56番3号 ゆう杉並内

☎ 03-3393-4760 / FAX 03-3393-4714